



木曾岬小学校だより



令和6(2024)年度 学力・学習状況調査について 第1弾(国語・算数)

2024年10月4日

本年度の全国学力・学習状況調査の結果及び考察について概要をまとめましたので、2回に分けてお伝えいたします。

調査は4月18日(木)に実施されました。内容は国語・算数と児童質問紙でした。目的は、調査結果を基に、児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育活動の成果や課題を検証し、指導改善(主に授業改善)に役立てることにあります。

主な結果及び考察とともに新たな傾向として出題された設問や本校の児童にとって弱みではないかと考察した設問等もご紹介いたします。今後の参考としてご一読いただければ…と思います。

なお、全国学力・学習状況調査の調査項目や結果等：詳細については、令和6年度全国学力・学習状況調査で検索いただけます。ホームページでご確認ください。

今年度の6年生の結果に現れた成果や課題を踏まえ、各学年の教育活動(主に授業)との関わりを学校全体で検証し、今後の教育活動に生かしていきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

国語

○概ね、国や県の正答率と同等の結果が見られました。

△長文を読み、出題者の意図(問い)に沿って、話の中心を捉えて解答すること、自分の考えをまとめて文や文章を整えることなどにおいては課題が見られました。

【正答率が国や県の平均値を上回ることができた設問】

3二(2)〈設問の概要〉【話し合いの様子】中心となる登場人物が【物語】の何に着目したのかについて説明したものを適切に選択する⇒人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる。

《正答率が国や県の平均値と比較して大きく課題の見られた設問》

1一〈設問の概要〉【学校の取組を紹介する内容をどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する】目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

1二(1)〈設問の概要〉【オンラインで交流する場面において、話し方を変えた理由として適切なものを選択する】話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる。

2一(1)〈設問の概要〉【文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして適切なものを選択する】目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

3一〈設問の概要〉【一文の中の述語の主語として適切なものを選択する】文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。

3二(1)〈設問の概要〉【どのように話すか迷っていると考えられるところとして適切なものを選択する】登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

3三〈設問の概要〉【物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く】人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる。

課題・今後に向けて…

今年度の長文読解問題では物語文が出題されました。設問3(裏面で紹介)です。具体的には、原さんが「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語(5ページ程度)を読んで、同じ物語を読んだ島さんと話し合ったあと、心に残ったところとその理由をまとめる(60字~100字)という設定の設問でした。

この設問では、登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉えて、人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることで、心に残ったところとその理由についてまとめることが求められていました。

特に、設問3三では、【話し合いの様子】を受けて、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由について、【物語】から言葉や文を選んで、条件に合う字数でまとめることができるようにといったねらいが込められていました。

人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述(順を追って文章で書かれたもの)を結び付け、それらを基に登場人物の性格や考え方を総合して判断したり、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしたりすることができるのかということについての検証でした。⇒この設問については無解答率が高くなりました。

そこで、今回は、裏面にて設問3を紹介いたします。学校では課題を共有しました。小学6年生でこの設問に答えられる国語の力が身に着くようにするには、各学年で大事にしたい学習は何かを考えて、指導に生かしていきたいと話合いました。ご家庭でも話題にしていたいただければ…と思います。

また、設問3四は、学力調査で初めて取り上げられた内容でした。読むことの学習が日常的な読書活動に結び付くようにというねらいが込められたものでした。読むことに関しては、外部講師の読み聞かせ指導を軸とし、読書習慣の定着に取り組み、家庭生活の時間の中でも、自分の将来設計に向けた個別最適な学習、学びへの意欲が向上していくように支援していきたいと思っております。

算数

○算数の基本的な問題(立式、図形の見方等)の理解は概ね国や県と同様または高い定着度でした。

特に速さについての学習の定着度は高いものでした。

△除数が小数である場合の除法の計算、グラフの読み取りやデータの活用について課題がみられました。

実用的な場面に関する設問において、文書題の内容(ねらいや意図)を理解して、関連する数値を整理し、活用して表現することに課題がみられました。算数的な課題というよりは国語的な課題が見られるといったものでした。

【正答率が国や県の平均値を上回ることができた設問】

- 1 (1) 〈設問の概要〉【問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ】問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる。
- 1 (2) 〈設問の概要〉【はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ】数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。
- 2 (2) 〈設問の概要〉【除数が1/10になったときの商の大きさについて正しいものを選ぶ】除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる。
- 3 (3) 〈設問の概要〉【直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く】球の直径の長さで立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。
- 3 (4) 〈設問の概要〉【五角形の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く】角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述することができるかどうかをみる。
- 4 (2) 〈設問の概要〉【3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く】速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる。
- 4 (3) 〈設問の概要〉【家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く】道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
- 4 (4) 〈設問の概要〉【家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く】速さの意味について理解しているかどうかをみる。

《正答率が国や県の平均値と比較して課題の見られた設問》

- 3 (1) 〈設問の概要〉【作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ】直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる。
- 5 (2) 〈設問の概要〉【示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く】簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる。
- 5 (3) 〈設問の概要〉【折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く】折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまるように言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

課題・今後の取組…

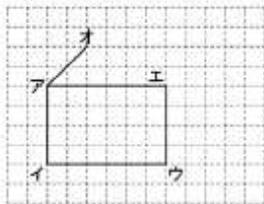
今年度、概ね国や県と同様の定着度でしたが、図形とデータ活用において課題が見られました。

設問③(1)は、図形の認識を問われるものでした。コグトレの取組(昨年度より実施)が生まれるきっかけとなった内容と同様のものでしたが、その定着度は十分なものではありませんでした。今後もコグトレで認知力を高め、平行・垂直の用語理解、展開図の作図等を通じて空間認識力を向上していきたいと思えます。次に、設問⑤2・3については、設問(目的)に応じて、文章や表、グラフ等から必要なデータを取り出して、分類整理するといった力を算数だけでなく、他教科や様々な活動を通じて向上していきたいと思えます。※設問の掲載については、紙面の都合により、第2弾の裏面に掲載しましたので、ご確認ください。

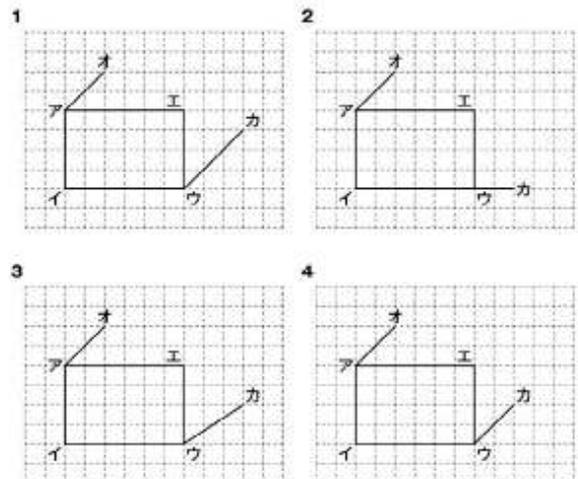
3

こばきさんは、いろいろな立体について学習してきたことをふり返っています。

(1) 直方体の見取図を、方眼紙に書いています。下の図のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



次に、下の1から4のように、点カ的位置を決めて、直方体の見取図をかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



解答

3 (1) 4

裏面：国語 設問③ 二・三・四 (一は省略)

原さんの手紙では、物語を読み、心に興。たゞこれについて説明することになりました。原さんは、「オニジモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ「物語」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語】市アからエと、①から④の

の内容は、あとの問いで取り上げられます。

空はふかい青色になって、それから、ふどりっぼくになって、それから、やわらかなむらさき色になりました。

さいごにこのこた三つのお星さまが、ひとつ、ひとつ、きえていきました。

オニジモじいさんは目をさまして、のびました。

「うん、うん、しずかだなあ、みんなは、まだねてるらしい」

それから、あたりを見まわすと、あま〜ときびしそうに、こうっけくわえました。

「どうせおきてたつて、わしのどこにあいつにくるやつなんが、いないだろうけどな、」

びどりぐらしのオニジモじいさんは、もうだいふ拳をとっています。

「ひきしぶりに、なれかとゆくり話でもしたいがな」

オニジモじいさんはため息をついて、あしもどを見ました。

「ほほお、つめたいと思つたら、朝っゆがこんなな〜」

オニジモじいさんがすわっている奥にも、まわりじゅうの草にも、小さなしずくがびっしりならんでいます。そして、なにもかもが、小わ小わの朝もやにつつまれています。

【朝目がのぼつたら、さやかしきれいだろうな、そうだ、じまんの葉を、すこしはなれたどこかから、ながめてみるでしょう】

オニジモじいさんは、鼻をだして、ふらんどぶらぶらと、朝の風に吹かれて、とりの草むらにうつりました。それから、そのまたむらむらと、

空のふらぶら、もも色にそまりました。はらっぱにたのたの朝もやも、小わ小わのピンツの雲のようになりました。もうすぐお日さまがのぼるのです。

そのとき、ちかくでおかしな歌声がきこえたので、オニジモじいさんは、はっとしてふりむきました。

「ふむふむ、ふむ、ふるん、

ふむ、ふふむ、ふるん」

とんできたのは、一びきのハエの女の子でした。

「あっ、オニジモじいちゃん、おはよう」

歌をやめて、ハエの女の子が、うれしそうに声をかけました。

「こらこら」

オニジモじいさんは、「ああ、そうにいいました。」

「こつちへきるためだつて、おつかさんに、いわれてないのかい」

「いわれたけど」

「ハエの女の子は、きゅうにしまぼんとなつて、ちかくの草にとまりました。

「おじいちゃん、どうしてそのことしてんの？」

「そりゃあ、手どもらにそういつてきかせないハエのおつかさんなんて、どこまさがしたつて、いやしないさ」

「なに？」

「ハエの女の子が、オニジモじいさんを見あげて、ききました。

「わしみたいなアを食べてるのよ」

「オニジモじいさんがまたいいました。けれど、またやめました。

「そして、どてもうびしそつな顔をして、ハエの女の子から目をそらしました。」

「おじいちゃん、どうしたの？」

「ハエの女の子がききました。

「なにが、こまったことでもあるの？」

「オニジモじいさんは、大きく息をすいました。それから、思いきつたようにいいました。

「いや、なんでもないさ、」

【朝目が、ひかりつ、わしが食べてききているのはな、朝目のひかりだよ】

「ハエの女の子は、よろこんでうけました。

【それが、朝目のひかりをつかまえてくれるんだよ、まあ、ちよつと見ていな、命にわかるから】

オニジモじいさんがそう、いったかと思うと、池のむこうから、お日さまがぱあつと顔をだしました。

そのどかん、ハエの女の子は驚おしをあげて、目をまんまるくしました。

はらっぱじゅうのもやが、ひかりの雲にかり、そして、そのまんなかで、オニジモじいさんの葉は、かぜえきれないほどたくさんのお日さままでできているように、きらきら、きらきらとまぶしくかがやいています。

「ほんとうに、ひかりをつかまえた〜」

「ハエの女の子は、やっど声が出ました。

「ああ、ほんとうにつかまえたんだよ」

オニジモじいさんもいきました。

まわりの林では、小鳥たちが朝の歌をうたいはじめました。

「ハエの女の子は、しばらくのあいだ、朝目のひかりをつかまえたアホの葉を、うれしそうにながめていました。

「な、わかつたろう？」

「やがて、オニジモじいさんがいいました。

「おまえがあれにつかまえてしまうと、朝目のひかりとまちがえられて、食われてしまうかもしれぬだろ？」

「ハエの女の子は、こっくりしました。

「おまえの葉が、サントウムシの家が歩いていきます。はじめに五ひきのさようだがどおりすたあと、はでれたほうやまがしにいたおつかさんが、ほうやをつつて、あわててあそこおつてきました。」

「おまえのおつかさんも、命ころ、おきて心配しているかもしれん」

オニジモじいさんがいきました。

「はやくかえつて、葉心させてやりな」

「はい」